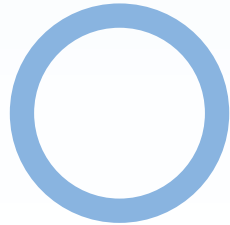
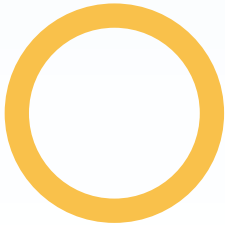




平和発信用ガイドブック



STEP



1945年8月6日 午前8時15分
広島で原子爆弾炸裂

そして、

1945年8月9日 午前11時2分
私たちの住む長崎で原子爆弾炸裂

人が人に核兵器を使った日です。
この2発で一瞬のうちに日常が奪われ、被爆者は
今も苦しみ続けています。
そして人はまだ、核兵器を作り続けています。

「もう二度とヒバクシャをつくらない」

これがヒバクシャの願いであり、私たちの使命です。

このガイドブックは、過去を受け、今を知り、未来のために
行動して行こうとするあなたの踏み出す1歩を
後押しするために作りました。

ぜひ、あなたの国の仲間にも伝えてください。

さあ！

今日からあなたもPeace Communicatorです！
長崎に住むあなたの仲間より



被爆の実相 p.1~p.6

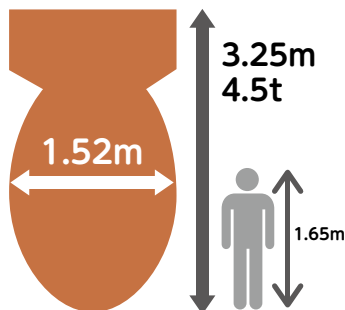
核兵器の現状 p.7~p.10

未来にむかって p.11~p.14



数字からみる原爆

長崎型原爆モデル図



爆風 50%
熱線 35%
放射線 15%

犠牲者・負傷者数(人口内訳)



148,793人 ※1

人口約240,000人 ※2

※1 1945年12月末時点

※2 1945年5月末時点の配給人口

原爆投下後

- 半径4km以内では、市内の約3分の1に当たる**11,574戸**が全焼、半径1km以内の**1,326戸**が全壊した。
- 投下後、あまりの負傷者の数の多さに、医療器具や薬品は不足し、十分な応急処置もできない状態であった。また、多くの医療機関も被害を受けたため救護活動はさらに難航した。

爆風

440m/秒

爆心地

240m/秒



160m/秒

熱線

1000m

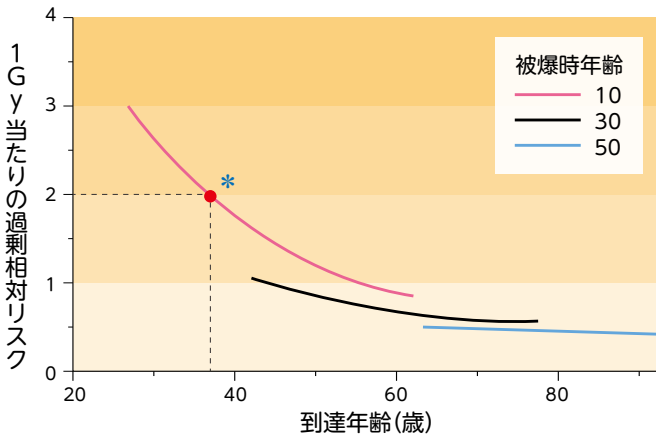
瓦が溶ける

放射線

原爆の被害はその時だけで
終わるものではない

放射線は数年、数十年たってから白血病やがんによって、健康へ影響を及ぼす可能性を高めることが知られている。

被爆時年齢が低いほどがんのリスクが高まる



◁被爆時年齢10歳、30歳、50歳における固形がん罹患男女平均過剰相対リスクの到達年齢による変化(ERR/Gy)
出典:公益財団法人放射線影響研究所 要覧

がん過剰相対リスクとは

放射線被爆を受けなかった場合のガン発症リスクを1としたとき、放射線被爆によってどのくらい発症リスクが増えたのかを表したもの。

たとえば*

10歳で被爆した人が37歳になったときのがん過剰相対リスクは2なので、被爆しなかった場合と比べてがんの発症リスクが3(=1+2)倍になる、ということである。



写真からみる原爆

1945.8.9 AM11:02 たった一発の原子爆弾で…



長崎市は日本の西方に位置し、港を中心に繁栄した町でした。

中でも造船業が盛んであり、日本中の様々な船を造っていました。

被爆前の長崎市

被爆後の長崎市

原子爆弾は、上空約500mで炸裂しました。家や学校、店、工場など多くの建物が一瞬にして破壊され、長崎の街は**焼け野原**となりました。



爆心地からの 建物の距離



爆心地

A:城山
国民学校

500m



長崎医科大学
附属医院

700m

H.J.ピーターソン氏撮影



三菱長崎兵器
製作所大橋工場

1300m

被爆後の学校の様子



林重男氏撮影

A: 城山国民学校

爆心地に最も近い国民学校だったので、建物や人員の損傷率が極めて高く、原爆被害の代表的な箇所の一つです。

また、死亡した児童は**約1,400人**にのぼりました。

B: 西浦上国民学校

木造2階建校舎は、全体が浮き上がり、押しつぶされた状態で倒壊しました。

人々の防火活動により、何とか類焼は免れました。



榎屋富一氏撮影

C: 新興善国民学校

爆風によって窓ガラスは割れましたが校舎自体は残ったため、負傷者の救護所として使われました。

治療患者数は、8月17日～31日の15日間だけでも、**8,000人**を超えました。

※被爆直後の患者数は不明

小川虎彦氏撮影



三菱病院
船津町分院

建物に大変な被害を及ぼした原爆、その時、人々は
どう思ったのだろう…

B: 西浦上国民学校

C: 新興善国民学校

1800m

2800m 3000m

写真はすべて長崎原爆資料館所蔵

証言からみる原爆

人々の心に、一生忘れられない 8月9日が刻まれた

子どもの体験



△平和の泉（平和公園内）

のどが渇いてたまりませんでした
水にはあぶらのようなものが
一面に浮いていました
どうしても水が欲しくて
とうとうあぶらの浮いたまま飲みました

～山口幸子さんの手記より～

△『原子雲の下に生きて』より抜粋（一部中略）

原爆投下直後、大やけどを負った人々は水を欲しがり、川や防火用水へ行き、そのまま息絶えた方も多くおられました。被爆当時**9歳**の山口幸子さんは無事でしたが、その水を飲んだために、身体への影響があるのではないかとずっと不安を抱えたままでした。

女子学生の最期

女子学生達はまっ黒に焼け、片方の目がなくなっている。
体中にガラスが突き刺さっている。苦しそうに
「ガラスを抜いてください」と
訴えている。



亡くなった女子学生達の
無念の思いが聞こえてくる。
「お嫁に行きたかった」

絵・文 松本政和氏

あの日の光景を描いている時の作者の気持ちは？



△「原爆の絵」より

三菱兵器茂里町工場。
工場の原型は失われ、屋根や壁はなくなり、鉄鋼は折れ曲がり、たくさんの人が下敷きになっていた。



当時、学生は**学徒動員**により、勉強ではなく労働を強いられました。当時**18歳**で、作業中に被爆した作者の心に、助けを呼ぶ人々に何もしてあげられなかった後悔が残り続け、被爆から50年以上の時を経て、供養の意をこめたこの絵が描かれました。

被爆者からのメッセージ

平和の原点は^{ひと}人間の痛みがわかる心を持つことです

当時**13歳**の吉田勝二さんは爆心地から850mで被爆。幾度の手術後も、右顔面に火傷の跡が残り、外に出る度に人々からの冷たい視線を浴び、苦しみました。



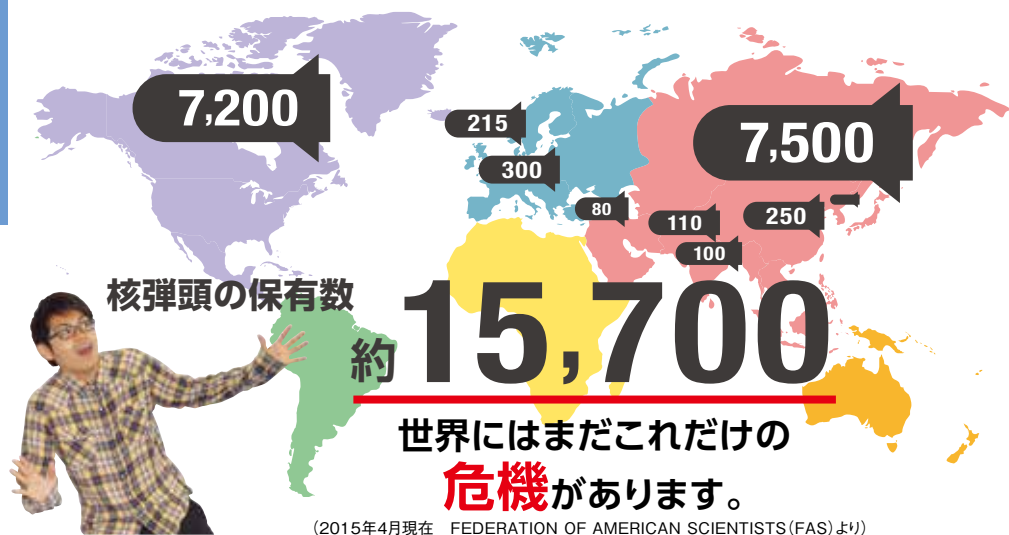
◁被爆当時の吉田さんの様子
（『私たちが伝える被爆体験』より）



△語り部活動時代の吉田さん

しかしお母さんの励ましと、自身の前向きな性格から**「元には戻らない、ならば明るく振舞おう」**と一大決心し、語り部活動や半生を描いた紙芝居を通して平和の大切さをこのメッセージとともに伝え続けてくださいました。

核兵器はあなたの身近にあります



なぜ核兵器はなくならないの？

核兵器を持っていれば
攻撃されることはない!



世界の秩序の維持には
核兵器が必要だ!



世界には、核兵器を持つ国に対抗したり、核兵器を持つ国から自国を防衛するために核兵器を保有している国があります。中には国際的な発言力や地位を築くことを目的としている国もあり、核兵器が**国力の象徴**となっています。

日本もそういった核兵器の抑止力に守られている国のひとつなのです。



核爆発をともなう 核実験 2,055回

第二次世界大戦終戦から70年。

世界はこれまで**2,055**回もの核実験(核爆発をともなうもの)を行っています。

広島・長崎の原爆投下以降も世界中で多くのヒバクシャが生まれました。

1948-1958 ビキニ環礁水爆実験



提供:公益財団法人第五福竜丸平和協会

太平洋上に浮かぶビキニ環礁では米国による水爆実験が行われ、大気、海洋を始め生物も放射能に汚染されました。また、日本の多くの漁船も被害を受け、そのうち「第五福竜丸」は、危険区域外で漁業を操業していたにも関わらず、全員が急性症状にみまわれ、半年後に1名が亡くなりました。これらから核兵器の放射線による影響は予測できないほどに広範囲にわたる危険性があることが分かります。

1949-1991 セミパラチンスク(セメイ)核実験



提供:NASHIM

カザフスタンにあるこの実験場において、約40年間で日ソ連が459回もの核実験を行いました。甲状腺の病気になったり、ガンにより亡くなったりした人が増加し、また、病気に対する恐怖・不安により、今も**心の問題**に悩む人も少なくありません。核実験は、住民の心と身体のどちらにも深い傷を残したのです。左の湖は爆発によりできたもので、核兵器の威力を物語っています。

(直径約 400 m、深さ約 100 m の「原子の湖」)

核兵器の脅威は現在進行形

過去最大の核兵器が 東京に落とされたら

ツァーリ・ボンバ

ノバヤゼムリヤ核実験場で使われた過去最大の核兵器で、50Mtもの威力があります。

それは長崎に落とされたファットマンの約2400倍にもなります。

ツァーリ・ボンバがもし東京に落とされたとしたら、東京はもちろん、その周辺にある都市も壊滅的な被害を受けることは容易に想像できます。

あなたの国は…?

ここで、1つのWebサイト「Ground Zero II」を紹介します。このサイトでは、過去に核実験等で使用された核兵器が、実際に他の地域で使用された場合のシミュレーションが可能です。

このシミュレーションから、私たちは「もしも」を目にすることができます。

たった1発でどれだけの範囲に影響を与えるのか。爆風・熱線・放射線が恐ろしい被害をもたらすでしょう。

しかし、他にも問題は残されています。

核兵器の使用に伴う爆発や、火災によって巻き上げられた微粒子が空を覆い、日光が遮断されます。

これに伴い、生態系が崩れ、人間が生存できない程の環境悪化にも繋がり、遠い国で核戦争があったとしても、「核の冬」🔍が訪れ、世界中に被害が及ぶでしょう。



Carlos Labs社「Ground Zero II」
<http://www.carloslabs.com/node/20>

世界中が 核兵器の廃絶に向けて 動きだしている

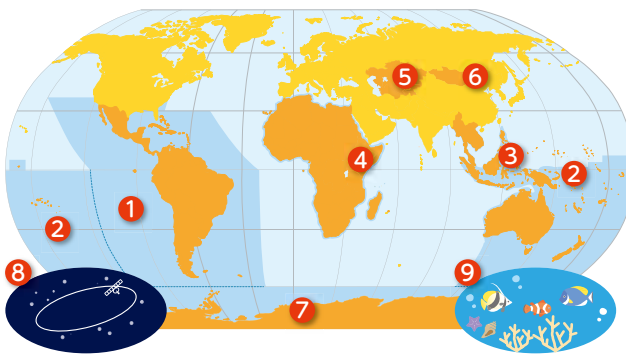
CTBT & NWC 包括的核実験禁止条約 /核兵器禁止条約

宇宙を含むあらゆる空間での核実験禁止を目的とした、包括的核実験禁止条約(CTBT)は、1996年の署名開放以来、今なお発効実現に向けた努力が続けられています。

また、2007年には核兵器そのものの全廃と根絶を目的とした、核兵器禁止条約(NWC)の草案が国連に提出され、現在国連加盟国の圧倒的多数の国々が条約実現に向けた早期交渉に前向きな姿勢を見せています。



非核兵器地帯



非核兵器地帯とは、核兵器の使用も製造もせず、また、核兵器を落とされることもない地域のことで。

現在、中南米、アフリカ、東南アジア、南極などがこの非核兵器地帯となっています。核兵器をなくしていこうとする国際社会の動きの中で、非核兵器地帯の存在はとても大きなものと捉えられています。

主な非核兵器地帯条約

- ① ラテン・アメリカおよびカリブ地域における核兵器禁止条約(トラテロルコ条約)
- ② 南太平洋非核地帯条約(ラロトンガ条約)
- ③ 東南アジア非核兵器地帯条約(バンコク条約)
- ④ アフリカ非核兵器地帯条約(ペリンダバ条約)
- ⑤ 中央アジア非核兵器地帯条約(セミパラチンスク条約)
- ⑥ モンゴル非核兵器地帯地位
- ⑦ 南極条約
- ⑧ 宇宙条約
- ⑨ 海底非核化条約



これからのわたしたちにできること

ここまで被爆の実相と核兵器の現状を見て、何を思いましたか？
確かなものは今あなたの心に芽生えたその“想い”です。
でも思ってるだけでは世界は変わらない。じゃあ…



どうすればいいの!?

Step 1

興味を持ったことを調べて考えてみよう!

行動するためにはまず、知識が必要だよ

被ばく者を作らないためには？
核兵器をなくすには？

まずは 🔍 が付いているワードを調べよう



Try!

🔍 ワードの中から興味を持ったものを書きだしてみよう!

Step 2

1人で出来ることから挑戦してみよう!

1人からできることって何だろう？

「ありがとう」「ごめんなさい」

きちんと言えて、**相手を思いやれる**こと

まずはこのガイドブックの内容を周りの人に話してみよう

これもあなたが一人できる

平和活動の**第一歩**じゃないかな？



Try!

他にもあなたが今できることを書いてみよう!

Step 3 仲間をつくろう!

協力してくれる友達がいたら、ひとりで行動するよりもっといろいろなことができるかも!



例えば、
あなたの近くにも協力してくれる**仲間**がいるかもしれないね
一歩踏み出して気になる友達に声をかけてみよう

その友達と一緒にまたほかの友達を作って
そして**友情**が世界中に広がって
世界中の人が友達になれば
未来はどうなるだろう…?



Try! 仲間を作って何をしたいか書いてみよう!

ここまで読み終えたあなたは**過去**、**現在**、そして**未来**へ
向かう方法を知りました。

平和を願う気持ちは世界中の人がもっています

たくさんの仲間が世界中にいます。

「やりたい!」と思った事を、
ぜひ行動に移してください。

あなたの**一歩**が 世界を変えていきます!

最後に…先輩たちはどんなことをしている
のか聞いてみよう!



先輩たちへのインタビュー



長崎市 青少年ピースボランティア

長崎原爆の実相を学び、平和の大切さについて考え、意見交換やガイドなどを通して、被爆体験の継承と平和の発信を行っている。

(200名程度在籍)

1. 平和活動をはじめたきっかけ



私は、つらい被爆体験を語ろうとしない祖父のためにも自分が何かしなければならなかった。



私は学校でも平和活動をしていたが、他にも何かしたいと思い探していたところ、青少年ピースボランティアを見つけた。

2. 平和を伝えるにあたって何をしたか



● 子どもたちとの平和についての意見交換

私は、子どもたちの意見交換がスムーズにいくように、事前にしっかり基礎知識を得て、子どもたちの状況を理解し想像しながら臨んだ。



● 小中学生への被爆継承活動

僕は家族や学校の先生にアドバイスをもらって、子どもがどうやったら真剣に聞いてくれるかを考え工夫したよ。

3. みんなに伝えたいこと



人種、性別などにとらわれてはいけません。みんな同じ人間で平和を願う気持ちは一緒のはずだから、戦争の過ちは二度と起こさないということを頭において平和活動に取り組んでほしいと思います!



伝えるうえで一番大切なのは、それを受け取る相手の状況を「想像」することです。

学ぶ時も、伝えるときも、常に想像するということを忘れないでください。



あなたがやろうとすることに多くの人が協力してくれるはずだから、勇気を出して手を取り合って平和活動をやっていきましょう!!



長崎市立小ヶ倉中学校 平和ボランティア部

被爆体験記、原爆についての紙芝居、東日本大震災体験記等の朗読劇を行ったり、平和に関するイベントへ参加したりしている。

(2014年設立 在籍8名)

1. 平和活動をはじめたきっかけ



被爆者として様々な活動をしていた祖母を見習い、私にも出来る事をしたかったんだ!



中学生になってから、被爆者の方の想いを受け継ぎたいという想いが芽生えたんだ!

2. 最初は何から始めたか

私たちにとって身近で、なおかつ気持ちを込めやすい「朗読」に取り組んだ。そのために、まずは発声練習から始めたよ。

より良いものにするために、外部の先生の指導を受けたり、みんなで集まってたくさん練習したりした。

実際にやってみて



しっかりと役になりきって、その人の感情や想いを込めるのが難しかった!



これから様々な平和活動をしていくうえで、とても勉強になったよ!

3. みんなに伝えたいこと

被爆者の痛みを知り、戦争や核のない世界を願い朗読などに取り組んできました。

10代でも平和を願う気持ちがあればできることはきっとある。

共にがんばりましょう。

編集後記

被爆の実相



担当者:

みねあやか うらかわ か え たいら どう こ はまぐち も な み
三根礼華、浦川佳絵、平良棟子、濱口萌奈美、
たていしもか にしもと か な もりさきけい と
立石桃花、西本果菜、森寄溪登

この本を作成した私たちにとっても、改めて平和について考える、有意義な機会になりました。同じ悲劇を繰り返さないためにも、私たちには、原爆の惨状や被爆者の想いを多くの人に伝えていく使命があります。お互いPeace Communicatorとして、小さなことから始めましょう。

担当者:

いとう かずよし あお た まさあき たていしすむ さ さ き
伊藤和吉、太田雅章、立石丞、佐々木すみれ、
まつもと けんた ろう もりぐち ゆうた ろう
松本健太郎、森口裕太郎

私たち核兵器の現状班は、現状を知っている人や全く知らない人など、知識や個性も様々な6人が集まりました。制作を進めていく中で、数字ひとつ載せるにもその情報源が正確なものかどうか調べる必要があることを知りました。この冊子では、あまり多くのことを伝えることはできませんが、興味を持つきっかけになればうれしいです。

核兵器の現状



未来にむかって



担当者:

にし た あき と いぬづか ま な た な か ようすけ
西田暁音、犬塚真菜、田中瑛祐、
まつ おも な み き と み ほ
松尾萌菜美、城戸美穂

世界平和を願う者の一員としてたくさん伝えた事があって、どうすればこの想いが伝わるのか皆で悩みながら、それでも完成に近づくたびにわくわくしながらこのガイドブックを作ってきました。これを通じて平和を願う仲間がつながっていけば、これ以上に嬉しい事はありません。みんなの活躍の知らせが長崎に届くのを待っています。

参考文献

- 『長崎原爆戦災誌 第1巻 総説編改訂版』 編集:長崎原爆資料館 発行:長崎市
 - 『長崎原爆戦災誌 第2巻 地域編』 編さん:長崎市役所 発行:長崎国際文化会館
 - 『長崎原爆戦災誌 第3巻 続・地域編終戦前後編』 編さん:長崎市役所 発行:長崎国際文化会館
 - 『公益財団法人 放射線影響研究所 要覧』
 - 『原子雲の下に生きて 長崎の子供らの手記』 編者:永井隆 発行所:中央出版社
 - 『長崎の証言双書3 小さき十字架-ナガサキの子ども手記集』 編者:長崎の証言の会 発行所:株式会社 汐文社
 - 『原爆の絵 ナガサキの祈り』 編者:NHK長崎放送局 発行所:日本放送出版協会 (NHK出版)
 - 『私たちが伝える被爆体験』 絵・文:長崎市立桜馬場中学校 印刷発行:長崎市原爆被爆対策部平和学習支援室
 - 『ピース・トーク きみたちにつたえたいⅧ くり返すまい ナガサキの体験-ピース・トークI~Ⅷ 被爆体験記総集-』 編集・発行:財団法人 長崎平和推進協会
 - 『核がなくならない7つの理由』 著者:春原剛 発行所:株式会社新潮社
 - 『SIPRI Yearbook 2014 Armaments, Disarmament and International Security』 編集:STOCKHOLM INTERNATIONAL PEACE RESEARCH INSTITUTE 発行:OXFORD UNIVERSITY PRESS
 - 『母と子で見るA34 水爆ブラボー 3月1日ビキニ環礁・第五福竜丸』 著者:豊崎博光・安田和也 発行所:株式会社草の根出版会
 - 『第五福竜丸 ビキニ事件を現代に問う』 著者:川崎昭一郎 発行所:株式会社岩波書店
 - 『カザフスタン共和国セミパラチンスク 被曝実態調査報告書』 編著者:川野徳幸・峠岡康幸・平岡敬・松尾雅嗣・Apsalikov Kazbek Negmatovich・Zhumadilov Zhaxybay Shaimardanovich・星正治 発行:広島大学原爆放射線医学科学研究所・広島大学・ひろしま平和科学コンソーシアム
 - 『核兵器事典』 著者:小都元 発行所:株式会社新紀元社
 - 『シリーズ戦争 語りつごうヒロシマ・ナガサキ 4 核兵器とはどういうものか』 文・監修:安斎育郎 発行所:株式会社 新日本出版社
 - 『核兵器のない未来のために (平成26年 長崎平和宣言解説書)』 編集・発行:長崎市平和推進課
 - 日本航空月刊誌『AGORA』コックピット日記Captain60 <https://www.jal.co.jp/entertainment/cockpit/captain60.html>
 - Status of world nuclear forces (FAS) ホームページ <http://fas.org/issues/nuclear-weapons/status-world-nuclear-forces/>
 - Carlos labsホームページ <http://www.carloslabs.com/node/20>
 - 外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/ctbt/gaiyo.html>
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/n2zone/gaiyo.html>
 - NTIホームページ <http://www.nti.org/treaties-and-regimes/proposed-nuclear-weapons-convention-nwc/>
 - UNODAホームページ <http://www.un.org/disarmament/WMD/Nuclear/NWFZ.shtml>
- ※webページについてはすべて2015年4月22日アクセス

平成27年7月 印刷

平成27年8月5日 発行

編集：長崎市青少年ピースボランティア／長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）サポーター

アドバイザー：長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）中村桂子氏

発行：長崎市被爆継承課 長崎県長崎市平野町7-8 長崎原爆資料館内

印刷：株式会社インテックス

